

学生限定
参加無料



MECT 2019

メカトロテック ジャパン 2019

MECHATRONICS TECHNOLOGY JAPAN



産学連携特別企画

工作機械トップセミナー

～ ようこそ夢のある工作機械の世界へ ～

	MECT会場見学	トップセミナーパーティー	トップセミナー
開催日時	2019年 10月26日(土) 10:00～16:00	2019年 10月26日(土) 16:30～18:30	2019年 10月27日(日) 09:30～13:00
会場	ポートメッセなごや (名古屋市国際展示場)	ポートメッセなごや (名古屋市国際展示場) イベント館ホール	名古屋市公会堂

参加資格：大学院、大学、高等専門学校、工業高等学校等の学生

工作機械トップセミナー



開催のご案内

私達が生活する現代社会は、便利で優れた数多くの工業製品によって支えられ、豊かな社会を構築してきました。こうした工業製品を生み出すために必要不可欠な生産設備が「工作機械」です。

良質な工業製品の製造には優れた工作機械が求められます。工作機械の機能・性能は、製品の品質や信頼性に影響し、自動車や航空機をはじめ、あらゆる製造業の分野に波及します。工作機械産業は、その国の製造業の国際競争力の根幹を成す、極めて重要な産業です。日本の工作機械産業は、長年に亘り、トップレベルの製品とサービスの提供を通じて、世界の製造業に大きく貢献してきました。

近年、「Society5.0」という未来社会の実現に向けて、全てのヒトとモノをつなぎ、新しい価値の創出や困難な社会課題の解決を図る動きがあります。また、産業界では、「Connected Industries」と呼ばれる、新しいものづくりのあり方をコンセプトに、IoTやAIを駆使した工場全体のスマート化を進める動きが加速しています。スマート工場において、あらゆる産業機械・機器類は、自動的に協調し、より省エネルギーで高付加価値な製品を生み出すことが可能となります。高度な技術とノウハウが集結した工作機械は、スマート工場において、その真価をさらに発揮し、令和時代のものづくりにおける中核となるでしょう。

工作機械産業がここまで発展することが出来たのは、多くの優秀な「人財」が、夢と情熱をもって研究開発に真摯に取り組み、

優れた工作機械を生み出してきたからに他なりません。これからも日本の工作機械産業が世界の製造業とともに発展を続けていくために、我々は次代を担う皆さんの情熱を必要としています。

本年10月23日(水)～26日(土)の4日間、最新鋭の工作機械が集結する「メカトロテックジャパン2019」がポートメッセなごやで開催されます。このショーに併せ10月26日(土)・27日(日)の両日、学生の皆様に工作機械産業の重要性や素晴らしさを知って頂こうと「工作機械トップセミナー」を開催することと致しました。

本セミナーでは、工作機械メーカーの経営者、製造業に関わる方々を講師に迎え、「ものづくり」と工作機械について、幅広い視点からわかりやすく語って頂きます。

その他、工作機械メーカーの若手とベテランエンジニアによるラウンドテーブルトークも予定しております。

工作機械の魅力を感じて頂けるまたとない機会です。皆様の奮ってのご参加をお待ちしております。



一般社団法人 日本工作機械工業会
会長 飯村 幸生

セミナープログラム【10月27日(日)】

時間	内容
09:30～09:40	開会挨拶 (一社)日本工作機械工業会 会長 飯村 幸生 氏
09:40～10:20	講演 1 工作機械メーカー経営者から学生へのメッセージ 講師：コマツNTC(株) 代表取締役社長 杉野 高広 氏
10:20～11:00	講演 2 液体を止める技術で100年～奈良発企業のものづくり改革～ 講師：三笠産業(株) 購買部 部長 森本 和彦 氏
11:00～11:15	休憩
11:15～11:55	講演 3 工作機械要素メーカーから見た日本のものづくり 講師：日本精工(株) 産業機械技術総合センター 所長付 主務 新井 覚 氏
11:55～13:00	ラウンドテーブルトーク 工作機械エンジニアとしての現在と未来 ファシリテータ：東京電機大学 教授 松村 隆 氏

お知らせ

セミナー前日の10月26日(土)に、MECT2019(ポートメッセなごや)会場内イベント館ホールにおいて、トップセミナー参加予定者、工作機械の研究に携わる大学の研究者、第一線で活躍している工作機械メーカー技術者を交えての懇親パーティーを開催しますので併せてご参加ください。
パーティー会場内には日本工作機械工業会会員企業がPRコーナーを設けます。



MECT 2019

メカトロテック ジャパン 2019

MECHATRONICS TECHNOLOGY JAPAN

▶ メカトロテックジャパンとは

1987年にスタートした、工作機械を中心とするFA技術専門展。西暦奇数年の秋に名古屋市のポートメッセなごや(名古屋市国際展示場)で開催される。奇数年のFA展としては、国内最大規模。通算16回目となった2017年展では、457社(1,933小間)が参加、92,305人が来場した。



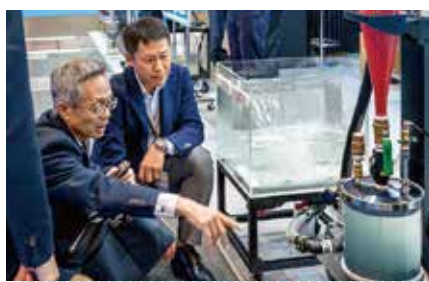
▶ 開催概要

名称	メカトロテックジャパン2019(略称: MECT2019) MECHATRONICS TECHNOLOGY JAPAN2019
会期	2019年10月23日(水)～10月26日(土)4日間 10月25日(金)はナイター開催 18:00まで、最終日26日(土)は16:00まで
会場	ポートメッセなごや(名古屋市国際展示場)1号館・2号館・3号館
予定開催規模	1700小間
予定来場者数	80,000人
入場料金	1人1,000円 団体10人以上1人500円(いずれも消費税込) ただし、事前登録者、海外来場者、学生無料
主催	(株)ニュースダイジェスト社
共催	愛知県機械工具商業協同組合
後援	経済産業省、外務省、文部科学省、日本貿易振興機構(ジェトロ)名古屋貿易情報センター、愛知県、名古屋市、名古屋商工会議所(順不同)
特別協賛	(一社)日本工作機械工業会 / 全日本機械工具商連合会(順不同)
協賛	(一社)日本鍛圧機械工業会 / 日本精密機械工業会 / (一社)日本ロボット工業会 / (一社)日本工作機器工業会 日本精密測定機器工業会 / 日本光学測定機工業会 / 日本機械工具工業会 / ダイヤモンド工業協会 日本工作機械販売協会 / 日本工作機械輸入協会 / (一財)製造科学技術センター / 日本機械鋸・刃物工業会 (一社)日本金型工業会 / (一社)日本電機工業会 / (一社)日本フルードパワー工業会 / (一財)マイクロマシンセンター (公社)日本ロジスティクスシステム協会 / (一社)日本電気制御機器工業会 / 日本産業洗浄協議会 研削砥石工業会(順不同)
出展製品	工作機械、鍛圧・板金加工機、射出成形機、3Dプリンター、機械工具、鋸刃、切削工具、工作機器、測定機器、試験機器、研削砥石、研磨材、油圧・空圧・水圧機器、歯車・歯車装置、環境・安全対応機器装置、CAD/CAM/CAE、制御装置・関連ソフトウェア、産業用ロボット、搬送装置、洗浄機械装置、品質管理・安全・試験認証機関、新素材、マイクロマシン、ナノテクノロジー関連など

▶ 詳しくは <https://mect-japan.com/2019/>

MECT2019

検索



講演アブストラクト

講演 1

工作機械メーカー経営者から学生へのメッセージ



コマツNTC株式会社

代表取締役社長
杉野 高広氏

1980年 金沢大学 工学部 卒業
1980年 トヤマキカイ(現コマツNTC) 入社
2003年 同社 標準開発部部长
2007年 同社 取締役 福野工場副工場長
2016年 同社 代表取締役社長

日本における工作機械とは?と聞かれた場合、いろんな答えはありますが、

- 1)「マザーマシン」と言われ、全ての産業の基礎である
- 2) エンドユーザーが一般個人ではなく法人等のため一般的には知名度が低い
- 3) 重機械でないため巨大企業は少ないが、ニッチトップメーカーも多い
- 4) 輸出割合も高く海外生産シフトも行っており、業界では海外でも高い知名度の企業が多い

5) 自動車など輸送機やエレクトロニクスメーカーと関係が深い

上記のほかにもありますが、この様に魅力ある工作機械業界を少しでも判って頂きたいと考えています。また、私の経験した内容をもとに、工作機械業界の取り巻く環境を説明し、①工作機械を製造する時に必要な技術 ②企業において必要とされる能力 等を説明する中で、これからの期待されるエンジニアはどうあるべきか、あつて欲しいかをお話する予定です。

講演 3

工作機械要素メーカーから見た日本のものづくり



日本精工株式会社

産業機械技術総合センター 所長付 主務
新井 覚氏

1997年 東京工業大学 大学院理工学研究科生産機械工学専攻 修士課程修了
1998年 日本精工株式会社 入社
2005年 英国クランフィールド大学 精密工学&ナノテクノロジー分野 Ph.D.学位取得
2015年 日本精工株式会社 直動技術センター BS技術部 グループマネジャー
2017年 同社 産業機械技術総合センター CMS開発部 グループマネジャー
2019年 同社 産業機械技術総合センター 所長付 主務

工作機械産業は、日本を支えるものづくりの基盤として重要な役割を担っています。その歴史は、数値制御化、リニアモータの活用、複合加工の進展などの変遷を経て、今なお発展を続けています。

ころがり機械要素の実用化も、そのなかで忘れてはならない展開のひとつです。現在に至るまで工作機械の回転部や直動部に使用され、加工精度や生産性の向上、省エネ化に大きな役割を果たしています。

工作機械の動きをつかさどる機械要素メーカーとして、私

たちは常に『社会のため如何に動きを価値あるものにするか』を考えています。見えないところで活躍する機械要素の進化は、実は身の回りで使われる製品をつくるうえで欠かすことのできないものなのです。

本講演で紹介するボールねじは、1960年代に日本で初めて本格的に実用化されて以来、工作機械の飛躍的な高性能化に貢献し続けてきました。ボールねじの最新技術を通して、動きに掛ける夢、ものづくりの将来像について思うところをお話してみたいと考えています。

講演 2

液体を止める技術で100年 ~奈良発企業のものづくり改革~



三笠産業株式会社

購買部 部長
森本 和彦氏

1988年 三笠産業株式会社入社
1998年 同社 経営企画室 課長
2008年 同社 内部監査室 室長
2013年 同社 栃木工場 工場長
2015年 同社 人事総務部 部長
2018年 同社 購買部 部長

皆さんは、醤油やドレッシングの容器包装がどのように作られているか、またどこで作っているのか考えたことはありますか？

当社は調味料分野でトップシェアをもつ、プラスチックキャップのメーカーです。大正元年に創業し、100年以上「液体を止める」技術で事業を行ってきました。

普段何気なく使っているものですが、もしこれがなかったら今の食生活や流通は成り立ちません。小さなパーツでも、私たちの生活になくってはならないものなのです。

では中身をしっかりと保持する、しかも使いやすい、そんなキャップを実現するにはどのような技術が必要なのでしょう。実はキャップは樹脂製の精密部品ともいえるべきハイテクの塊で、見た目からは想像できないほど様々な技術が入り組んでいます。

講演では、製品に隠された意外な工夫や製造プロセスをご紹介します。身近な製品のものづくりの魅力に触れていただきたいと思います。

ラウンド テーブルトーク

工作機械エンジニアとしての現在と未来



ファシリテータ 東京電機大学 教授
松村 隆氏

1985年 東京工業大学 工学部機械物理工学科 卒業
1987年 同学 大学院理工学研究科機械物理学専攻 修士課程修了
同年 同学 工学部 助手
1992年 東京電機大学 工学部 専任講師
1993年 同学 工学部 助教授
1997年
↳ マサチューセッツ工科大学 客員研究員
2006年
2002年 東京電機大学 工学部 教授

スピーカ 工作機械メーカーのエンジニア
(4社4名を予定)

皆さんは、「工作機械をつくる」という仕事がどのようなものかご存知でしょうか？工作機械のユーザは様々な業種の製造業です。どのユーザも、より良い製品を製造するために、工作機械メーカーに様々な要求を提示します。こうしたユーザの要求に応える、優れた工作機械を生み出すために、多くの優秀なエンジニアが取り組んでいる仕事とはどのようなものか、皆さんの先輩にあたる工作機械メーカーの若手エンジニアの方々から詳しくご紹介頂きます。

また、日々の仕事に取り組む中で、工作機械エンジニアが感じる工作機械の魅力、仕事のやりがいやエンジニアに求められる心構えなどについても率直に語っていただきます。

このラウンドテーブルトークがエンジニアを目指す皆さんに参考にしていただける内容が詰まったいい機会となることを願っています。

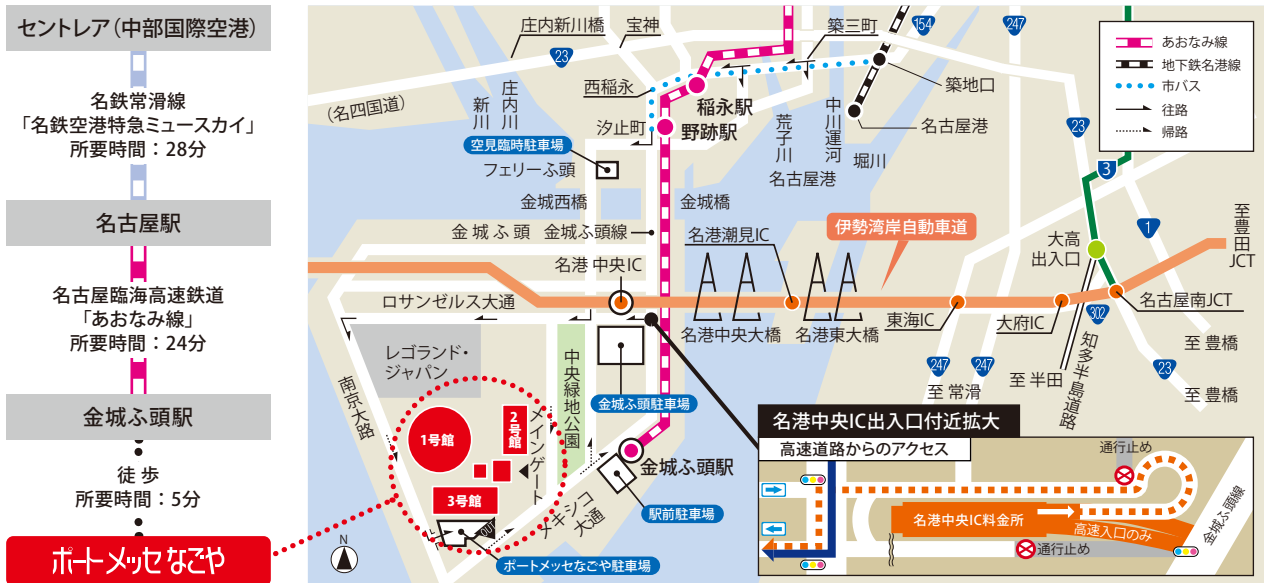
会場案内図 & 交通アクセス

ポートメッセなごや

10月26日

MECT会場見学

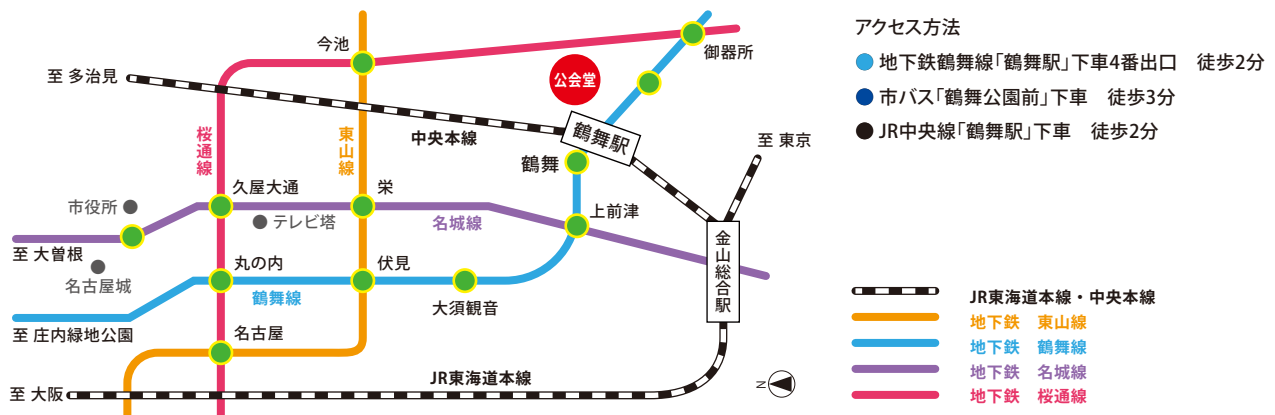
トップセミナーパーティー



名古屋市公会堂

10月27日

トップセミナー



「工作機械トップセミナー」参加申込みについて (定員になり次第締め切り)

申込方法

当会ホームページ (<http://www.jmtba.or.jp/archives/4598>)にてお申込み下さい。

上記方法での申込期限は10/22(火)までとさせていただきます。

それ以降のお申込みはセミナー当日、直接会場までお越しください。

注1：MECT会場見学(10/26)は各個人で対応してください(見学ツアーではありません)。

注2：懇親パーティー(10/26)のみの参加はご遠慮ください。なお、パーティーに参加される方は、当日16:00までにMECT会場へご入場ください(16:00を過ぎた場合はご入場できません)。

注3：工作機械トップセミナー(10/27)は開始時間までに会場(名古屋市公会堂)へお越しください。開場は9時を予定しております。

問合せ先

(一社)日本工作機械工業会 笹川、松井

TEL:03-3434-3961 FAX:03-3434-3763 E-mail:topseminar@jmtba.or.jp